

催し物のご案内

平成28年度特別展

Minerals in the Earth

大地からの贈り物



2016年7月16日(土)～

2016年11月6日(日)

岩石は、火山活動やプレートの運動、地層の堆積など、様々な地球の営みによってつくられているため、その種類もたくさんあります。岩石は様々な鉱物によって構成されています。本展示では、様々な条件でできた地質、岩石を構成している鉱物を紹介する展示を行い、あわせて鉱物の魅力、美しさ、多様性なども紹介します。

《当日受付の講座》

●**室内実習・講義「昆虫少年・少女のひろば」**
日時/①8月7日(日)②8月21日(日)各13:30～16:30 対象/小学生とその保護者、中学生～大人、教員(原則は生徒対象)各回定員なし/当日受付

《事前申し込みの講座》

講座の内容・対象・申し込み方法等は、博物館ホームページまたは催物案内をご覧ください。

●**野外観察「中学生火山講座～箱根中央火口丘その2～」**[早雲山～姥子(箱根町)]
7月25日(月)10:00～15:00/申込締切:7月5日(火)

●**室内実習「貝殻のふしぎを調べよう」**①ホタテ ②いろいろな巻貝 ③アワビ ④アサリ
[博物館]①7月23日(土)②7月30日(土)③8月13日(土)④8月20日(土)各10:00～15:30/申込締切:①②7月5日(火)③④7月12日(火)

●**室内実習「岩石プレパレート観察講座」**[博物館]①8月24日(水)②8月27日(土)各13:30～16:00/申込締切:①②とも7月12日(火)

●**野外観察「海辺の野鳥観察会」**[照ヶ崎海岸(大磯町)]9月3日(土)8:00～10:00/申込締切:8月16日(火)

●**野外観察「昆虫観察会②」**[酒匂川(小田原市)]9月11日(日)10:00～15:30/申込締切:8月23日(火)

●**室内実習「あなたのパソコンで地形を見る(一般対象)～windows限定～」**[博物館]9月11日(日)10:00～15:00/申込締切:8月23日(火)

●**室内実習・野外観察「秋のイネ科植物」**[博物館と周辺]9月22日(木・祝)10:00～15:30/申込締切:9月6日(火)

●**野外観察「秋の里山ウォッチング」**[新治市民の森(横浜市)]9月24日(土)10:00～15:00/申込締切:9月6日(火)

●**野外観察「川と用水路の生き物を調べよう」**[酒匂川周辺(開成町)]9月25日(日)10:00～15:00/申込締切:9月6日(火)

●**室内実習「比べてみよう哺乳類の歯」**[博物館]10月1日(土)10:00～15:00/申込締切:9月13日(火)

●**講義・野外観察「アメリカザリガニ対策の現場体験②」**[麻生区はるひ野(川崎市)]10月2日(日)9:30～15:00/申込締切:9月13日(火)

●**野外観察「秋のきのこの観察と同定」**[早雲公園(箱根町湯本)]10月2日(日)10:00～15:30/申込締切:9月13日(火)

●**室内実習・講義・野外観察「植物図鑑の使い方 樹木編 ～この木なんの樹?～」**[博物館と周辺]10月8日(土)10:00～15:00/申込締切:9月20日(火)

ライブラリー通信

ヒメハルゼミ(姫春蟬)の名付け親・谷 貞子を探して つちや さだお 土屋定夫(司書)

箱根町に「早雲寺ヒメハルゼミの会」というNPO法人があり、文字通り早雲寺のヒメハルゼミについて、保護活動や調査研究などを行っています。

ヒメハルゼミは生息地域が限られており、天然記念物に指定している自治体もあります。神奈川県内では早雲寺の寺林にのみ生息しているため、「ヒメハルゼミ並びに生息地」として、昭和40年に箱根町が天然記念物に指定し、寺林については神奈川県の天然記念物にも指定されています。

神奈川県レッドデータ生物の調査において、ヒメハルゼミは「準絶滅危惧種」とされており、これはその生息地が限定されていることによるものです。

ところで「ヒメハルゼミ」で、あることを思い出しました。県立川崎図書館で勤務していた時に、普段あまり知られていない人物を取り上げ、その生涯に光を当てるというミニ展示をしていました。人物紹介において、知られていない人を調べることほど、難しいことはありません。人選に悩んでいた時、「日本古書通信」(2010年5月号)の中に、昆虫学者である大野正男氏の「女流昆虫学者第一号をめざした谷貞子」という一文を見つけました。

それによると、明治時代に昆虫の面白さに目覚めた谷貞子という女性が、名古屋の女学校を卒業後、岐阜にある名和昆虫研究所に入所し、鳴く虫の研究に没頭します。その成果は明治38年、研究所発行の「昆虫世界」に12回にわたり連載され、大きな反響を呼んだというのです。

この女性を取り上げることになりましたが、「昆虫世界」の実物を探すと段階で早くも大きな壁にぶつかってしまいます。何とか、当時は小平市にあった植物防疫資料館が所蔵していると判明、閲覧も出来ることとなり、同僚の職員2名とともに調査に向かい、資料館のご配慮のおかげで論文の写しを入手することができました。

実は大野氏の一文には貞子の肖像写真も掲載されていましたが、その出所の記載はなく、探せないだろうと思っていました。コピーを終えた時に、貞子は研究途上で病いを得てしまい、25歳という若さで亡くなったことを思い出し、もしかしたら追悼の記事があるのではと考えました。没年の巻も見たところ、予想通り記載があり、しかも肖像写真も見つかったのです。その時の一同の驚きは、資料館の職員の方たちに笑われてしまったほどです。

このようにして、谷貞子の足跡の一端をたどることができました。貞子に関する資料は決して多くはないでしょうが、まだ何か見つかるかもしれませんね。

参考までに動物学者の高島春雄氏も「動物学雑誌」(昭和10年2月号)に「ヒメハルゼミ」という短文を載せていて、その冒頭に「和名は谷女史が名附親、學名は大正6年松村博士の命名」であると記しています。

自然科学のとびら

第22巻2号(通巻83号)

2016年6月15日発行

発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館

館長 平田大二

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846

<http://nh.kanagawa-museum.jp/>

編集 集 田口公則

印刷 株式会社あしがら印刷

© 2016 by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.

* 冊子体には再生紙を使用しています。